

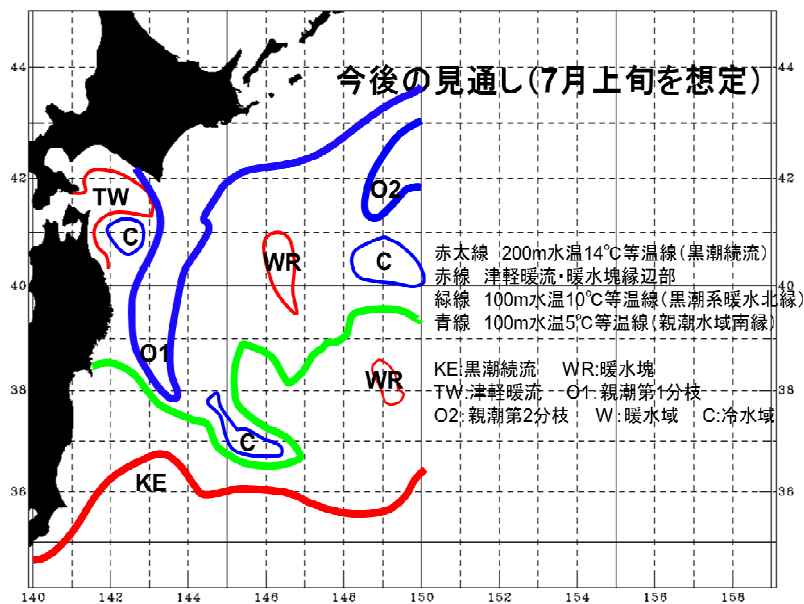


2019年度 第2回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所、東北区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2019年6月下旬~7月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏からかなり北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏で推移する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所

担当：業務推進部 島田、伴

生産環境部 黒川、東屋

電話：011-822-2131、ファックス：011-822-3342

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2019年度東北海区海況予報 第2号

《今後の見通し（2019年6月下旬～7月）》

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏からかなり北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏で推移する。三陸はるか沖の暖水塊は北西に移動し、金華山はるか沖の暖水塊は西進する。

《海況の経過（2019年4月～2019年5月下旬）の特徴》

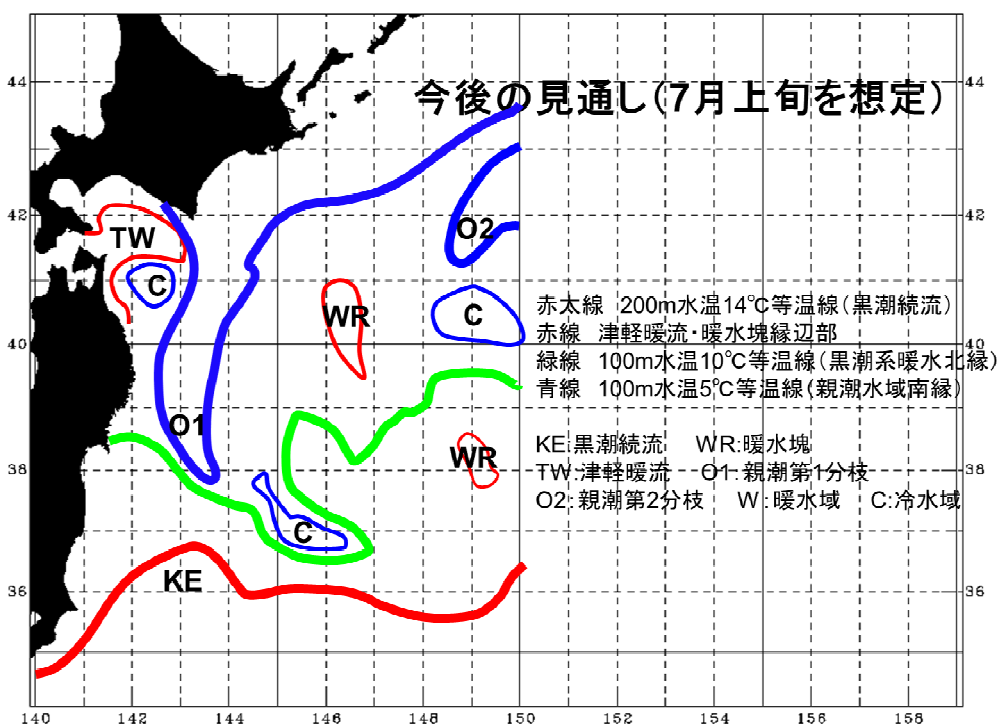
近海の黒潮続流の北限位置は、かなり北偏から極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは、平年並みからかなり南偏で推移した。下北半島はるか沖の暖水塊は北東に移動し、5月下旬に消滅した。三陸はるか沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2019年6月上旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置はかなり北偏、親潮第1分枝の張り出しは極めて南偏である。暖水塊が三陸はるか沖、常磐はるか沖にある。冷水域が下北はるか沖、金華山沖、常磐はるか沖にある。

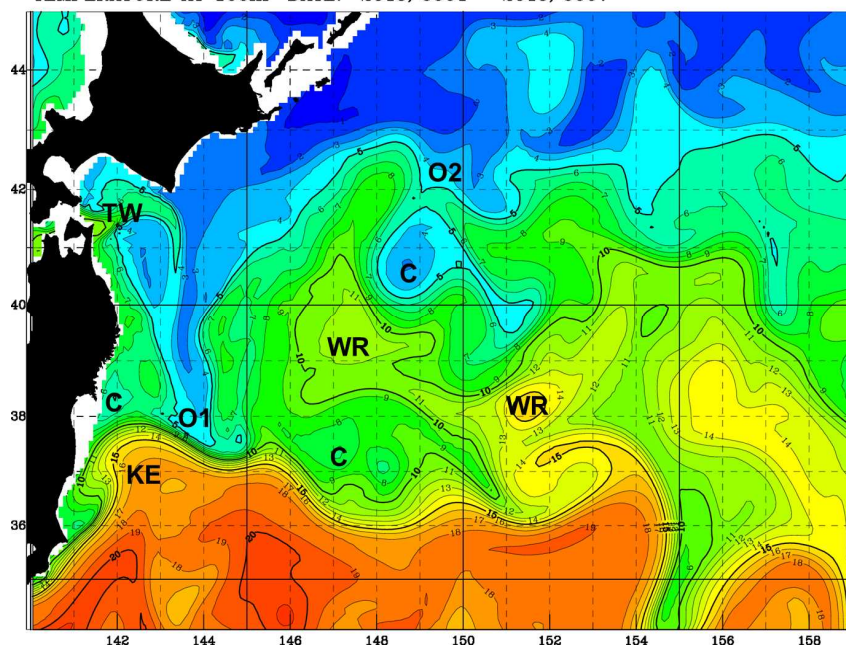
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

7月上旬予測水温分布図



6月上旬の現況水温分布図（100m深）

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2019/0601 - 2019/0607



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人水産研究・教育機構 北海道区水産研究所</p>
--	--